

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 2. 13

下水道機構の『新技術情報』 第33号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇
先週からテレビでは、チョコやスイーツの特集が多くなりましたね。そう明日は、バレンタインデー(´v`*)欧米では恋人や友達、家族などにカードや花束、お菓子などを贈るそうで、女性が男性にチョコレート贈るのは日本独自の習慣だそうです。ホワイトデーもまた然り。私も日本方式でバレンタインデーをと考えていますが、我が家の大黒柱は、チョコレートが苦手なので、大好物の餃子でハート型を作れないかと思案中です。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第33号をお届けします。

業務に Tea Break にご活用ください。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

- ・2月9日(木)、横浜市水道局の川名部長をお迎えして技術サロンを開催しました！
- ・2月10日(金) 新技術現場研修会「千葉市南部浄化センター 鋼板製消化タンク」を開催しました

★機構の動き

- ・今週は、第3回汚泥処理新技術実用化評価委員会と第3回 水処理新技術実用化評価委員会が開催されます

★Tea Break

- ・家族会 (研究第二部 匿名希望さんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

- ・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

★国からの情報

- ・2月9日付け及び号外下水道ホットインフォメーションです

インフォメーション (最新の話です)

●2月9日、横浜市水道局の川名部長をお迎えして技術サロンを開催しました！

前回、前々回のサロンでは、下水道における国際関係の取り組みについて意見交換したところですが、今回は下水道から少し離れて、しかし、下水道との関係が深い「水道事業における水ビジネス展開」をテーマにしました。ゲストには、この関係で先進的な取り組みを進められている横浜市水道局の事業推進担当部長の川名 薫様をお迎えしました。

川名部長は、平成15年3月にベトナム・ホーチミン市に料金徴収分野の専門家として派遣されるなど、国際関係業務に従事されてきました。平成21年、経営企画担当部長、平成22年からは事業推進担当部長として、横浜水道の新たなビジネス展開施策の検討業務にあたり、横浜市水道局100%出資会社である横浜ウォーター(株)の設立に携われました。今回のサロンでは、これらの経験を踏まえて、横浜市水道事業の水ビジネス展開についてお話しいただきました。内容は、横浜市水道局のこれまでの国際協力、そして、法的制約への対応や迅速性、機動性、弾力性等を求めての横浜ウォーター(株)の設立による海外水ビジネスの展開、今後の水道局の公民連携による海外展開の方向性等についてでした。なお、ベトナムでは上下水道一体で国際協力を進めていきたいとお話がありました。概要は第2号(2月中の配信予定)の機構ニューズレターに掲載予定です。

さて、次回技術サロンは、3月8日木曜日の17:00~18:00、機構会議室において開催します。ゲストには日本下水道事業団技術戦略部長の野村 充伸様をお迎えして、「津波及び放射性物質を含む汚泥対策」をテーマに開催します。今、最重要の課題の一つといえるテーマについての最新情報に触れてみませんか？皆様のご参加をお待ちしております。参加申し込みは機構ホームページから。

→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-302.htm>

※前回1月の第300回技術サロン、国土交通省下水道部の加藤調整官の資料を専用サイト登録者のページに掲載しました。→ <http://www.jiwet.or.jp/>

●2月10日(金) 新技術現場研修会「千葉市南部浄化センター 鋼板製消化タンク」を開催しました。

現在、鋼板製消化タンクについては、当機構と(株)神鋼環境ソリューションとで共同研究をおこなっています。今回の現場研修会は、千葉市南部浄化センターにある実証実験設備(容量750m³、直径10m、高さ11m)を見学しました。鋼板製消化タンクは、従来の鉄筋コンクリート製の消化槽に対し、経済性や建設工期の面で有利で、計測装置により内部状況の可視化を図れるため、運転・維持管理を容易にする可能性を持つ技術で、今後、複合バイオマスの受け入れを考慮した小規模消化設備への適用も期待されています。現場見学では、神鋼環境ソリューションから、本技術の特徴の一つである内部状況の可視化による運転管理や維持管理の説明を受けた後、タンク低部に設置されている計測装置(挿入型流速計の脱着、堆積物センサーなど)、実際にらせん階段を上り、壁に設置された観測窓からのタンク内部や屋上のインペラ式攪拌機を見学し、鋼板製消化タンクの知見を深め

ることができました。当機構からは、共同研究の概要についてを説明。実証実験等で得られた成果を技術委員会に諮り、平成 24 年度末には技術マニュアルとして取りまとめる予定です。また、千葉市南部浄化センターの鈴木所長から、センター概要・千葉市における包括的外部委託概要など説明を受けるなど、盛りだくさんの現場研修会となりました。

今回は、60名を超える多数のご参加をいただきました。時間管理には気を付けていましたが、終了予定時間を大きく超過してしまい、事務局として反省しています。今年度の新技術現場研修会は今回でおしまいです。来年度も、3回程度予定していますので、管路、処理場に係わらず下水道に関する「見学したい新技術」がございましたら、企画部までご連絡下さい。

機構の動き (機構の行事予定です)

- 2月16日(木) 14:00~16:00(場所:機構8階特別会議室)
第3回 汚泥処理新技術実用化評価委員会
- 2月16日(木) 14:00~16:00(場所:機構8階中会議室)
第3回 水処理新技術実用化評価委員会
- 2月21日(火) 14:00~16:00(場所:機構8階特別会議室)
第3回 新技術設計手法等共同研究委員会
- 2月23日(木) 14:00~17:30(場所:機構8階特別会議室)
第3回 管路技術共同研究委員会

Tea Break (機構職員の感じるまま)

- 家族会 (研究第二部 匿名希望さんからの投稿です)

先週は健康駅伝お疲れさまでした。その後発表された公式タイムを見て祝賀会や反省会がさらに盛り上がっているのではないのでしょうか。

さて、下水道機構では2月の休日行事にもう一つ、家族会というものがあります。これは、職員のご家族を事務所に招待して、事務所内を見学してもらったり、職場の仲間とそのご家族と一緒に食事をしたり歓談したりして、ご家族に職員の仕事について理解していただくため、また職場の和を築くために毎年開かれております。出向職員が多数を占める機構では職場の仲間を知り、人を知る良い機会となっております。立食式の会場は奥様やお子さん、お孫さんなど沢山の人が参加し、普段は堅苦しい会議室も賑やかな場に変じます。豪華賞品が当たるビンゴ大会が始まると会場は子供や大人達の歓声で一層盛り上がります。私も初めて参加した時にいただいたバーバリーの高級下着は着心地がよく、ゴルフ大会や釣行には勝負下着として愛用させていただいております。

また、毎年帰り際に土産にいただくアマリリスの球根の鉢植えも5つとなり、毎年初夏

○「災害時の復旧段階における下水処理の適正な管理に関する検討会」開催【流域管理官】

下水道は、公衆衛生の確保、公共用水域の水質保全など市民生活にとって重要な役割を負っており、災害時には一日も早い機能回復が求められます。しかしながら、東日本大震災による甚大な被害を踏まえると、本復旧が完了するまで相当程度の時間を要することが予想され、「緊急措置」、「応急復旧」により、段階的に処理レベルを向上せざるを得ない場合が生じます。その場合には、本復旧までの応急復旧段階においては、被災による制約条件の下、可能な限り迅速に処理レベルを向上するための段階移行と適正な管理による放流先への影響の最小化を図ることが必要です。

そこで、「下水道地震・津波対策技術検討委員会」による第2次提言では、段階的応急復旧のあり方として、制約条件下における技術的オプション（生物処理法）の選択例や応急復旧段階における目標処理水質が示されました。この第2次提言を受け、応急復旧段階において、迅速な目標処理水質の達成による放流先水域への影響の最小化を図るために参考となる「災害時の復旧段階における下水処理の適正な管理に関する手引き（案）」を早急にとりまとめるため、東北大学大村達夫教授、京都大学田中宏明教授をはじめとする学識者、地方公共団体、関係団体が参画する「災害時の復旧段階における下水処理の適正な管理に関する検討会」を設置し、第1回検討会を次の通り開催します。

日時：平成24年2月10日（金）16：00～18：00

場所：砂防会館 別館3階 立山

会議は非公開ですが、冒頭のカメラ取りのみ可能です（要登録 03-5253-8432 山下まで）。

審議事項

- ・ 応急復旧段階における簡易処理方式とその効果
- ・ 応急復旧段階における適切な消毒方法のあり方
- ・ 放流先水域の条件に応じた影響評価と必要処理レベルのあり方

●ベトナム国ハイフォン市下水道の「人材育成業務」を受注【北九州市】

～下水道分野で初のビジネス案件獲得～

北九州市および一般財団法人北九州上下水道協会は、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」会員企業がハイフォン市から受注した、下水道に係る人材育成業務を共同で実施することに合意しました。北九州市が取り組む下水道事業の海外展開において初のビジネス案件獲得になります。

今後は、研修員受け入れや現地での技術指導などに取り組むことで、相手国政府とのネットワークを構築し、推進協議会会員企業の商機拡大につなげていく予定。

詳しくは、下記URLを参照してください。

<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000105632.pdf>

●連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を守る－24学会からの発信－」【環境システム計測制御学会】

主催 日本学術会議 土木工学・建築学委員会、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会

場所 日本学術会議講堂（港区六本木 7-22-34）

第3回「減災社会をどう実現するか」 2月29日（水） 14時から17時30分

※ 申し込み満員です ※

第4回「首都直下・東海・東南海・南海等の巨大地震に今どう備えるか」 5月10日（木） 14時から17時30分

※ 同日13時より会長記者会見を予定 ※

※ 環境システム計測制御学会から田中宏明会長（京都大学）が発表します ※

第5回「大震災を契機に地域・まちづくりを考える」 6月21日（木） 14時から17時30分

第6回「原発事故からエネルギー政策をどう建て直すか」 7月24日（火） 14時から17時30分

第7回「大震災を契機に国土づくりを考える」 8月8日（水） 14時から17時30分

申込は下記 URL より。

<http://jeqnet.org/sympo/no3.html>

○第4回ものづくり日本大賞【技術調査課】

ものづくり日本大賞を「ベル工法（耐食・耐震に優れた塩ビ管を用いて下水道を構築する工法）」が受賞しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo14_hh_000255.html

=====

【参考情報】

◆下水汚泥焼却灰 東京湾の中防外側へ <2/3 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/tokyo/20120203/CK2012020302000053.html>

◆県の風力発電施設が本格運転 神栖の下水処理場 <2/3 茨城新聞>

http://ibarakinews.jp/news/news.php?f_jun=13281943493771

◆インフラの点検管理、不十分＝国交、厚労両省に勧告―総務省 <2/3 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/politics/jiji/JJT201202030009.html>

◆県営下水処理場の汚泥から放射性物質 /群馬 <2/4 毎日新聞>

○東日本大震災・水インフラ復興シンポジウム「未曾有の災害を教訓に進化をめざす水インフラ」

【主催：日本水道新聞社(日本下水道新聞・日本水道新聞)、ICS コンベンションデザイン 後援：国土交通省など】

日本下水道新聞・日本水道新聞が東日本大震災発災直後から被災地取材に当たり着目した、被災地での切実な体験談や取り組みを通じて、今後の復興ロードのあるべき姿を思考し、宿命的な地震国における水インフラの今後あるべき姿と危機管理の重要性を科学的に情報発信していく機会とします。

日時：平成 24 年 2 月 15 日（水） 10 時 30 分～17 時 30 分

会場：東京ビッグサイト 会議棟 1 階 レセプションホール A

プログラム

(午前の部)

◆基調講演

長峯純一 関西学院大学総合政策学部教授、気仙沼市震災復興会議委員
菅原 茂 気仙沼市長

(午後の部)

◆事例提供

亀山 紘 石巻市長、石巻地方広域水道企業団企業長

◆オープンディスカッション「見逃せない水インフラの復興深層」

- ・コーディネーター＝▽竹村公太郎・水の安全保障戦略機構 事務局長
- ・パネリスト

▽亀山 紘・石巻市長、石巻地方広域水道企業団企業長

▽降矢正一・郡山市水道事業管理者

▽野村充伸・日本下水道事業団技術戦略部長

▽佐藤裕弥・浜銀総合研究所地域経営研究室長

◆特別講演

猪瀬直樹 東京都副知事

◆事例提供

安附太郎 仙台市建設局経営企画課資産管理戦略室主任

◆オープンディスカッション「危機管理と上下水道アセットマネジメント」

- ・コーディネーター＝▽滝沢 智・東京大学大学院教授
- ・パネリスト

▽熊谷和哉・厚生労働省健康局水道課水道計画指導室長

▽加藤裕之・国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道事業調整官

▽石井美樹・東京都水道局給水部配水課長

▽安附太郎・仙台市建設局経営企画課資産管理戦略室主任

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/>

○コラムの正解はこちらから→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/seikai.pdf>

